

【事業名】データ流通システム・トレーサビリティ管理システムの電池規則細則・DD対応改修に伴うNRI-CTSの改修と海外対応

事業者名：株式会社野村総合研究所

実施期間：令和6年8月～令和7年2月

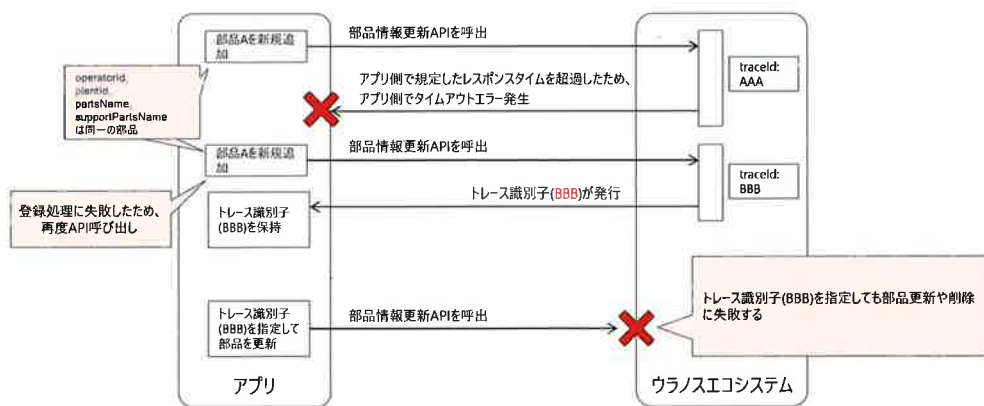
1. 事業の背景・目的

- ウラノス接続機能を持った欧州電池規則対応および自動車LCAに向けたカーボンフットプリント算定ソリューションであるNRI-CTSについて、欧州電池規則CFP細則やデューデリジェンスに対応するためにウラノスのトレーサビリティ管理システムのAPIの追加や改修に対応するとともに、デューデリジェンスの法要求に含まれる個人情報に関して中国等のように越境規制を有する国に所在する日本企業の海外サプライヤーがウラノスエコシステムに参画できるように、NRI-CTSの基盤を中国等の越境規制が存在する国に複製するための準備を行うことを目的とする。

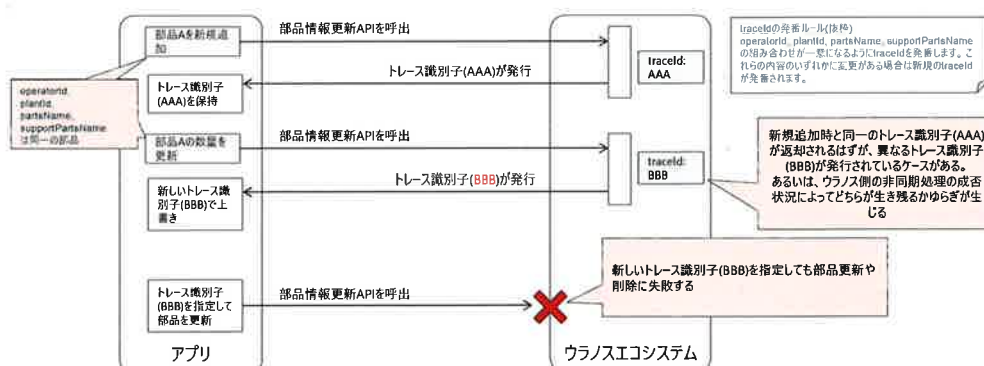
2. 補助事業の概要

- 2024年8月から11月にかけて、ABtCトレーサビリティシステムのAPI2.0.0の実証テストへの参加、また、本番システムへの反映作業を実施した。また、API3.0.0について内容に関する技術検討を行い、課題点等を指摘し、修正要望を出した。
- 2024年11月時点で、欧州電池規則細則が未公表であり、事業性が不透明であることからNRI-CTS事業を中止し、開発・保守運用チームが解散となったことから、技術検討の成果をシステムに反映させ実証試験に参加することはできなかった。

3. 補助事業の成果



- ウラノス側呼び出しがタイムアウトした場合にデータ不整合となる。
- ウラノス側にて最大処理時間が規定されていないため、タイムアウトしたと判断する基準が存在しない
- 更新エラー発生時に更新処理を取り消す手順が存在しないため、非同期でデータが追加されたままとなる



- 呼び出しタイミングによって同一トレース識別子となる条件で異なるトレース識別子が発行される
- ウラノス側で非同期に登録処理が実行されていることが原因と想定される